

イスラーム勉強会 テキスト

預言者ムハンマドの生い立ち第3回

勉強開始時のドゥアー

ビスミ = ッラーヒ = ッ = ラフマーニ = ッ = ラヒーム。

(慈悲あまねく慈愛深きアッラーの御名において)

بسم الله الرحمن الرحيم

アル = ハムドゥ・リッラーヒ・ラッピ = ル = アーラミーン。

(あらゆるものの主アッラーにこそすべての称讃あれ)

الحمد لله رب العالمين

ワ・アフダル = ッ = サラーティ・ワ・アタンム = ッ = タスリーミ・アラー・サイイディナー・ムハンマディン・ワ・アラー・アーリヒ・ワ・サハビヒ・ワ・サッラム。

(そして我らが指導者ムハンマドさまとご家族、ご教友に最高の祝福と平安がありますように)

وأفضل الصلاة وأتم التسليم على سيدنا محمد وعلى آله وصحبه وسلم

アッラーフンマ・アフリジュナー・ミン・ズルマーティ = ル = ワハム。

(アッラーよ、どうか私たちを思い込みの闇から救い出してください)

اللهم أخرجنا من ظلمات الوهم

ワ・アクリムナー・ピ = ヌーリ = ル = ファフム。

(理解の光をお恵みください)

وأكرمنا بنور الفهم

ワ = フタハ・アライナー・ピ = マアリファティ = ル = イルム。

(知識の扉をお開きください)

العلم وافتح علينا بمعرفة

ワ・サッヒル・アフラーカーナー・ピ = ル = ヒルム。

(私たちの性格を温和さでより穏やかなものとしてください)

وسهّل أخلاقنا بالحلم

ワ = ジュアルナー・ミンマン・ヤスタミウーナ = ル = カウラ・ファ = ヤッタビウーナ・アフサナ (フ)。

(そしてどうか私たちを、言葉に耳を傾け、その中でも最善のものに従う者たちの一員としてください)

واجعلنا ممن يستمعون القول فيتبعون أحسنه

このテキストの注意事項

- * テキストを作成する上での参考文献は基本的に日亜対訳・注解クルアーン（宗教法人日本ムスリム協会発行）及び預言者ムハンマドの足跡を辿って＜前編・生誕からヒジュラ（マディーナへの移住）まで＞（アフマド・クフターロー師の預言者伝講義より）訳アブー・サキーナ前野直樹によります。
その他については都度注釈を付けることを心がけます。
- * 預言者ムハンマドのお名前を聞いたり、口にしたりする時は、「まことにアッラーと天使たちは預言者を祝福する。信仰する者たちよ、汝らは彼を祝福し、最大の敬意を払って挨拶しなさい」（クルアーン33章56節）とクルアーンにあるように、必ず「アッラーの祝福と平安あれ（サッラ＝ツラーフ アライヒワ サッラム）」と祈るのがムスリムとしての礼儀ではある。しかし本テキストではあえて割愛させて頂いた。しかしムスリムの方は各自お祈りの言葉を唱えて頂きたい。
- * 本テキストで旧約聖書・新約聖書等にも登場する預言者達の名前が出てくる場合は、全てアラビア語読みとします。一例とすると「アダム」は「アーダム」、「ノア」が「ヌーフ」、「モーセ」が「ムーサ」、「イエス」が「イーサー」である。
- * アラビア語を日本語にする時にどうしても当てはまらないニュアンスの単語があり、日亜対訳・注解クルアーンと違う説明が出てくる時もあるが、出来るだけこれについても引用文献の注釈を付けることを心がけます。
- * 基本的にこのテキストでは、文献に基づいた事柄を中心にしますが、制作者の個人的な意見も書く場合があります。その場合も注釈を入れます。
- * イスラームを勉強する場合は、ムスリム（人間）を見ないようにといわれています。どの宗教でも同じですが、完全な人間はいませんので、あるムスリムを見て「あれがイスラームか」と納得しないで頂きたいと思います。出来るだけ信頼の高い文献で裏付けするか、同じ事柄を複数のムスリムに聞いた方が良いでしょう。正しい知識を得る努力をして下さい。
- * 本テキストへのご意見・疑問・質問等ありましたら制作者までお問い合わせ下さい。

بسم الله الرحمن الرحيم

アッサラーム アライクム

ムハンマドの基礎知識 3

結婚後～啓示を受けるまで

今回は、ハディースとの結婚及び当時の腐敗したメッカのことをお話ししました。

今回はムハンマドが啓示を受けるまでのお話をします。

預言者性の前兆

前兆とはムハンマドが啓示を受けるまでに起こったあらゆる吉事や奇跡のことで、預言者性が現れるまでの特色や福音のことである。

第1の前兆は、イーサ（イエス）が6世紀以上前に伝えた福音からである。

「マルヤム（マリア）の子イーサが、こういった時のことを思い起こすがよい。「イスラエルの子孫達よ、まことにわたしは、あなたがたに（遣わされた）アッラーの使徒で、わたしより以前の律法を確証し、わたしの後に来る使徒、その名はアフマドの吉報を与える者に他なりません」(第61 [アッ=サッフ] 第6節)

その他にユダヤ教徒達も不正に満ちたこの世を正義で満たしてくれる預言者到来の時代は近い、という福音を伝えていた。

啓示の始まり

西暦610年40歳を迎えたムハンマドは、メッカ近くの山にある洞窟にこもり瞑想を始めだした。(ヒラーの洞窟という)

同年のラマダーン月、ムハンマドはいつものように洞窟に通い瞑想していた。

そしてラマダーン月27日、西暦にして610年8月19日、ライラトゥ＝ル＝カドル」と後に言われるその夜に、ヒラーの洞窟にて初めての啓示が下された。

天使が現れムハンマドに「読みなさい」と告げたのである。

ムハンマドは当時を振り返って次のように言っている。

「わたしは読めません。」と言うと、天使はわたしを掴んで覆いかぶさり、息苦しくなると離してまた「読みなさい。」と言いました。わたしが「わたしは読めません。」と言うと、天使はまたわたしを掴んで覆いかぶさり、息苦しくなると離すといったことを三度繰り返し、

「読みなさい。創造された汝の主の御名において。

凝血から人間を創造された御方。

読みなさい。汝の主は最も尊い御方。筆とる術を教えられた御方。

人間に未知なることを教えられた御方である」(第96章1-5節)

と言ったのです。」

ムハンマドは心臓の動悸も激しく家に帰り、妻であるハディースのもとへ行って家人達に「わたしを包んでくれ」と言い、長衣に包まれ恐怖が静まると、今起こったことを話し出した。そして「自分が恐ろしい」(何かに取り憑かれたと思い)と言った。そんなムハンマドをハディースはいとこであるワラカ・ブン・ナウファルのもとへ連れて行った。ワラカは元々純粋な一神教徒でありキリスト教徒でかつ聖書学者の一人である。彼は盲目であった。

ムハンマドはヒラーの洞窟であったことを彼に話すと、ワラカは言った。

「それはアッラーにかけてムーサー（モーゼ）に下されたのと同じナムース（啓示伝達の天使、ジブリール＝ガブリエル）じゃ。もしその時私が若く、そなたの同胞達がそなたを追放する時まで生きていたらのう。。」

そこでムハンマドは「彼らが私を追い出すのですか？」と尋ねた。

ワラカは悲しげに頷いて言った。

「そう、そなたに起こったようなことに見舞われた者で、敵対されなかった者はおらぬ。もしわしが、その日まで生きていたら大いにお助けできたものを」
その後、ワラカは亡くなり、啓示もしばらく途切れることになる。
聖書に良く通じていたワラカの言葉には、ムハンマドも安堵感を覚えたと思われる。
何かに取り憑かれたのではなく、アッラーの啓示を授かったと知ったのだから。
その後もムハンマドはヒラーの洞窟に通い続けた。

預言者について

クルアーンには過去の預言者の名前が25人明記されている。
その他にも預言者は存在し、とある伝承では12万4千人と言われているが、根拠が薄い説である。

クルアーンにはこう書かれている

「これまで汝に物語った使徒達もいれば、まだ物語っていない使徒達もいる。」

(第4章164節)

つまり正確な数はアッラーのみ知るところである

ブハーリーのハディースについて

名前は、イマーム・ムハンマド・ブン・イスマーイール・アル＝ブハーリーと言い
中央アジアのプラハ生まれ。イラン系ハディース学者である。

(ヒジュラ歴195～257＝西暦810～870年)

16年間ハディース収集の為に諸国を遍歴し60万とも100万とも言われるハディースを収集した。

100万ものハディースの中から約7300だけを編纂し、誰よりも厳しいハディースの識別法によって編纂されたブハーリー師の「真正集」はハディース六書の筆頭に挙げられ、クルアーンに次ぐ権威を持つにいたっている。

ライラトゥ=ル=カドルについて

直訳すると「力の夜」という。

一般的な意味はラマダーン月後半のある一夜のことを意味する。

また、聖クルアーンが啓示された夜として歴史上の一夜でもある。

この夜は千ヶ月よりも祝福された夜であり、諸天使と精霊が天下って夜明けまで地上に平安がみなぎるとも言われている。

この日が正確にいつかは諸説あるが、ラマダーン月最後の10日間の奇数日、中でも27日目の夜という説が有力とされている。

クルアーンにも書かれています。

「真にわれはこの（啓示を）力の夜に下した。力の夜が何であるかをお前に理解させるものはなにか。力の夜は千月に優る。（その夜）天使たちと聖霊は主の許しのもとにあらゆる所に舞い降りる。暁までそれは平安である。」（97章全節）

この夜には天使たちが群をなして地上に下り、祈っている人々の許しをアッラーに求めます。地上に降りる日がいつかはわかりませんので、この10日間から探すのです。そこで断食中のムスリムは、この夜を求めて毎晩祈りに時を費やします。

この夜に関して、次のようなハディースがあります。

「アブー・フライラは、アッラーの使徒が次のようにおっしゃられたことを伝えている。『その徳を信じ、報奨を望みつつみいつの夜を過ごす者は、過去の罪が赦される。』」

そして、この夜に行うべきことについては、聖アーイシャが預言者から次のように伝承しています。

聖アーイシャ「アッラーの使徒よ、みいつの夜がどの夜であるかがわかったなら、その夜にはどのようなことを言うべきですか。」

アッラーの使徒「アッラーよ、あなたはお赦しになるお方、お赦しを好まれるお方であられます。私をもお赦してください、とドゥアーしなさい。」

預言者ムハンマドは、「みいつの夜が訪ずれると、天使ジブリールは他の天使たちと降りてきて、立ったり座ったりして恵み深きアッラーをしのんで瞑する人たちへの祝福を祈られた」と言われたそうです。

預言者の妻アーインヤは次のようにいっています。

「アッラーの使徒ムハンマド（かれの上に平安あれ）は、ラマダーンの最後の十日のあいだは、いつもより一層熱心にアッラーに帰依するために努力されるのが常でした」と。

今回は、「啓示から2年目の重大事件」です。